



「鈴木商店と加古川」

来年神戸港開港 150 年を迎えるのを機に、総合商社鈴木商店が注目を浴びています。明治 7 年(1874)、砂糖商として神戸・弁天浜で創業し、名番頭金子直吉の才覚と「お家さん」こと女主人鈴木よねの決断力で、明治・大正期の一時は「天下三分」のくだりが示すように大財閥三井、三菱を圧倒し日本一の売り上げのある総合商社の勢いがありました。世界 40 カ所に支店を置き、樟脳業、製糖業、鉄鋼業、人造絹糸業など当時 60 社を超える企業を抱える総合商社として君臨しました。現在も鈴木商店ゆかりの企業として、神戸製鋼所、サッポロビール、双日、商船三井、帝人、昭和シェル石油、大日本明治製糖、鈴木薄荷などが企業活動を行っています。



鈴木商店本体は米の買占めを疑われ、米騒動のさなか、大正 7 年(1918) 8 月 12 日本店(旧ミカドホテル、JR神戸駅近く)に約 2 万人の群衆が殺到・焼き打ちに遭い、灰塵と化します。その後の昭和時代初期の金融恐慌によって破綻してしまいます。

さて、その鈴木商店の女主人鈴木よねが所有していたと伝わる十三重塔が平岡町二俣の圓明寺にあります。なぜ、ここにあるのかは定かではありません。

ぶらり加古川 第 40 号

平成 28 年 11 月